

〔曲名〕 Berceuse de Jocelyn

ジョスランの子守唄

〔曲種〕 Berceuse

〔作曲者〕 Benjamin Louis Paul Godard

バンジャマン ルイ ポール ゴダール

〔編曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

期せずしてこの作者も1849年に生まれ、1895年に逝いたフランスの歌劇作曲家。

パリーの音楽院では作曲のほかにヴァイオリンをヴュータンに学んだほどで、メロディが殊のほか美しい。

その為この子守唄も凡ゆる器楽に編曲されている。

本邦でも大正13年（1924）にセノオ楽譜で竹久夢二の相応（ふさわ）しい表紙絵で出版されて、広く愛唱された佳曲。

ヴァイオリン独奏用に編曲されたものからマンドリン合奏に移してみたが、試奏してみると、イタリアのオリジナルのマンドリン曲には味わえない抒情があって美しく、歌詞を離れて音だけで充分堪能できる。

こうしてみると愈々解説などというものは虚しい無用なものに感じてしまうものである。

〈注〉：セノオ楽譜

明治43年から大正を経て昭和2年までに亘って、妹尾（セノオ）幸陽によって出版された楽譜で、約500曲ある。

主として海外の著名歌曲を邦訳歌詞と共に紹介、邦人作品も山田耕筰、藤井清水、本居長世などがあるが、

まだ出版楽譜というものゝ少なかった時から長期に亘って継続出版して我が国の音楽界に貢献した功績は大きい。

そして大正を代表すると云ってもよい竹久夢二の大半の表紙絵（出版者・妹尾が傾倒した）によって今では法外な市価を呼んで珍重されている。

これが出版者の名に因んでセノオ楽譜と称するものである。

1993年 6月 発行

マンドリン合奏曲集 6 集（JMU版 パート譜付）より